

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム里心		
所在地	福岡県八女市黒木町桑原277-1		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果確定日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>里心全体の方針として、「接遇」「活動性」「食事」に力を入れています。  「接遇」…お客様に気持ちよく過ごして頂くための、専門性の高い接遇が出来る。声掛け・言葉使い・表情などに気を付けてます。  「活動性」…行事を多く取り入れる。心身機能の向上・生活意欲の向上・認知症の進行予防・社会性の維持を目指す。  「食事」…食事を美味しく召し上がって頂く為、彩・味付けに気使っています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム里心」は平成13年に開設。母体法人は八女市内に有料老人ホーム・デイサービス・小規模多機能ホーム・ケアプランセンターなどを運営しており、グループホームのみ平成28年に現在の町中に事業所を新築移転した。バスの営業所に近く交通の便はよい。事業所そばの矢部川沿いには花が咲きのどかな散歩コースになっている。里心全体の方針として「接遇」「活動性」「食事」に力を入れている。心安らぐ、信頼のある場所づくりに職員全員でお応えしたいとの思いがある。地域との交流も里心祭り・ふるさと祭り・文化祭・保育園児の訪問など盛んに行っていた。コロナ禍の中、思うような活動はできないが、車窓ドライブ・紫陽花、コスモス観賞・近隣散歩・事業所内の行事などを工夫している。今後もますますの発展が期待される事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 iorionakano naka	月1回の職員会議にて管理者より読み上げ、全スタッフ共有し実践している 玄関に理念と方針を掲げている。	令和2年5月に副社長が法人全体の理念を作成した。玄関に理念、方針を掲げている。月1回の職員会議にて管理者が読み上げ、全職員で共有して実践につなげている。理念に基づき、個々に行動目標を立て年1回の個人面談にて管理者と話しあう。	今後、より理念を共有するために職員会議での読み上げを、職員間で順番に読みあげるようにして見てはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年里心祭りを開催し、地域の方に喜んで頂いていたが、新型コロナの影響にて出来ていない。	毎年「里心祭り」を開催し地域の方の参加もあり喜ばれていた。ふるさと祭り・文化祭・保育園児の訪問もあり、敬老会の開催時には協力もあった。コロナ禍の中、敬老会なども事業所内で行っている。区長さんからは毎月地区の様子ができるように広報をポストに投函してくれる。社協から相談があったり、小規模多機能ホームからは介護相談などがある。今後は公民館とのつながりを持つ予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は地域の方の訪問や運営推進会議等で認知症とはどういうものかを伝えられているが、新型コロナの影響にて外部からの立ち入りを制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様に対し、どのような行事が好まれるか等、話し合う中で利用者様へのサービス向上ができていたが、新型コロナの影響で資料のみ配布し電話にてご意見を聴取している。	コロナ禍の中、運営推進会議は開催していない。開催時は社協・福祉課・包括・区長などの参加があった。現在、資料のみ配布し電話で意見を聴取している。	今後、運営推進会議の議事録の送付とともに意見書を同封し、項目をいくつか挙げて意見を出しやすくしてみようだろうか。意見を抽出する事でさらに運営に活かされていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の共有を行いながら、協力関係を築いている。	11月に、市で研修があり、小規模多機能・グループホームから職員が参加する。連携会議は2~3か月に1回行われている。最近では管理者が代わる事などに関し、人員配置の相談を行った。介護認定の更新申請は、直接市を訪問している。事業所の空き状況を伝えたり、困難事例を相談したり、日頃から連絡を密に取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。身体拘束マニュアル周知や年2回ほどの身体拘束の研修を行っている。	身体拘束委員会は年4回行っている。内部研修は年2回行い、身体拘束0の事業所方針やスピーチロックも含め身体拘束についての理解を深めている。研修資料はイラスト入りでとても分かりやすい。スピーチロックについては、気が付いたとき、その時に注意するようにしている。	

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が絶対ないように、ミーティングでの内部研修を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネほある程度は理解しているが、職員も内部研修いとおまかな理解はしている。	2名の方が成年後見制度を利用している。現場での実例を通して、又は内部研修にて理解を深めるようにしている。職員もおおまかな理解はできている。制度利用が必要になった時は、管理者が相談に乗っている。	今後、社協などに研修の講師をお願いしてみたらどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、一通り説明をした後、分かりにくい点や納得いかない点について詳しく説明し、納得いただいてから契約して頂く。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は随時傾聴し、ご家族様の意見は面会時や電話にて聞けるようにしている。	家族の面会はガラス越しで行い、希望のある時はいつでも対応できる。「里心だより」は3か月1回又毎月個別に本人の様子をお知らせした手紙と写真を添え担当者が送っており、家族から喜ばれている。利用者からは日頃の会話の中で聞き取りを行い、家族からは面会時あるいは電話などで意見・要望を聞き取るようにしている。	意見箱の設置はあるが意見は入っていないとの事。「里心だより」の送付時に一筆便のようなものを入れ、訪問時に意見を入れやすくするなど工夫され、表面にあがってこない意見などを取り込めるようにして見たらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個人面談にて聞いている。	月1回ミーティングがあり、意見・提案ができる。必要な事項については全体で共有している。ミーティング以外でも日常的に意見・提案は言いやすい環境にある。管理者はすぐに改善などの対応を行ってくれる。年2~3回管理者との個人面談があり、自己評価を行う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップに応じた労働条件を明記している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	誰であっても、希望があれば面接を行った後検討している。	20~60歳代と年齢は幅が広い。三分の一が男性職員である。休み時間、場所も確保されている。研修機会もありシフト交換・希望休も取れる。外国籍の職員もおり、イラストが得意・手先が器用で飾り物の作製をしたり、レクリエーションに力を入れるなど、それぞれに能力を発揮して生き生きと勤務している。	

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時内部研修を行っている。	ネットから検索した認知症とは・ターミナルケアなどの内部研修を行った。イラストを交えた介護現場における権利擁護について・本人の尊厳についてなどわかりやすい研修資料に基づき、職員も認識し日々のケアの中で人権を尊重した動きや啓発活動につなげている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は外部講師を呼び研修をし、研修後はレビューを書いたが、ここ1年は内部研修を行うことで、ケアの質を高めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会の研修等に、参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人・家族に希望を聞いた上でケアプランを立案し、プランに沿って実践している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の悩みを聞き、気になること等あれば、電話相談や意見箱で意見も受け付けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に対し何が一番必要かを見極め順番にサービスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、スタッフ共に家族のように時間を共有している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意見、ご家族様の意見双方の立場を考えて、本人様を支えている。		

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	個別でも行きたい場所や、自宅等に行けるように心がけている。	以前住んでいたところにドライブに行った。、自分が住んでいた家を壊すようになったので見に行きたい。自分が植えた紫陽花を見に行きたいなどと本人が大切にしてきた場所などと関係が途切れないうに支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごすことを好まれる利用者様もいらつしやる為、すべての利用者様が支えあえるような環境にはできていない。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、相談を受け付けていることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人聞き取りができない場合はご家族に聞いたりしながら、意向を把握している。	入居時に管理者、主任が本人、家族、関係者より生活歴・馴染みの暮らし方・要望などを聞き取りアセスメント表にまとめる。日々の生活の中で、思い・意向の把握に努める。思いの表出が難しい方には表情、仕草などから思いをくみ取るように努め、家族の協力も得るようにしている。把握した情報は職員全員で共有する。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に至るまでの生活歴等は、入居時に家族から、入居後に会話の中から聞き出しきちんと把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を、穏やかに暮らせるように配慮している。有する能力がある利用者様については、お手伝い等行っていただいている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に一人一人のカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画の変更をご家族様の了承を頂き、変更する。	毎月のミーティング時に一人ひとりのケアカンファレンスを行い、課題を見つけ出し変化を見逃さないようにする。実施記録にはニース・短期・長期目標が書かれており、実施記録とプランは紐づいている。担当者介護では本人、家族から意見、要望を聞き、医師・看護師などからも意見をもらう。それぞれの意見、要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を些細な変化も逃さず記録し、問題解決に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、可能な限り本人の意思を尊重し、柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設での行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間のオンコール体制を築けている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続ができることを説明している。提携医がかかりつけ医となっている方が多い。月1回訪問診療と週1回看護師の訪問がある。24時間オンコール体制を築いている。歯科の往診は必要時に依頼する。他科受診は家族又は職員が対応している。受診時の様子は医療ノートで共有し、家族にも電話にて報告する。適切な診療が受けられることで安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日の訪問看護に来てもらい、病気の早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族様と一緒にスタッフも同行し現状を病院に伝えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化・終末期の話をしご家族様に考えて頂きながら、終末期を迎えて頂くよう配慮している。	看取りの指針はある。入居時に説明を行い書面にて同意を得る。重度化された時に再度医師らと交え、話し合いを行い方向を決め、改めて同意書ももらい、チームで支援に取り組む。管理者が中心となり職員に看取りの研修を行い、理解を深めている。	

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回応急救護の講習に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方にも参加してもらいたかったが、新型コロナの影響でホームのみで行った。	年2回火災訓練を行った。昼・夜想定で行った。消防からの立ち会いはなかったが、立ち入り検査に見える予定である。水害訓練の資料を作り提出する。避難場所は小学校となっている。コロナ禍の中、地域との協力体制は困難だったが、今後は地域の方に参加してもらったり、地域の訓練にも参加しようと思う。備蓄は米・水・レトルト・缶詰め・防災ラジオなどを用意している。今後、見直しをして笛・ヘルメットなども用意していく。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し常に敬語を心掛けているが、利用者様との関係性を考慮した場合はそのかぎりではない。	スピーチロックについての研修。接遇の研修として、接遇マナーとは？接遇マナーを身に付けるメリット・重要性とキホンの5原則・接遇を実践する際に意識することなどわかりやすい研修資料により、日頃から一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。	研修とともに、自己点検チェックなどを行い、再確認することで、気付きを高めてみたらどうだろうか
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助をする前には、声掛けし同意後行う。意思疎通が取れない場合は声掛けを行うことを徹底している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の基本となる1日の流れはあるが、その時に応じた、対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の意思を尊重し、常に清潔感のある身だしなみに心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けと、関われる利用者様には感染予防対策しかかわって頂き、食事の時間を楽しいものにしていただいている。食事前には嚥下体操をして、ムセなく美味しく食べてもらう様にしている。	材料の購入は本部で行っている。メニューは各事業所で調理する職員が作る。誕生日には行事食にし、ケーキを購入し利用者と一緒にケーキに飾りつけをする。利用者ができることは手伝ってもらう。近隣の農家の人からみかんを頂くことがある。	

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた、食事量・水分量を提供している。欲しいと言われた際は、制限のある方でなければ、食べすぎない程度で十分に提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必須だが、嫌がられる際はうがいのみ等と無理に行わない。義歯の方に関しては夕食後外される方は外して頂き、翌朝朝食前に着けて頂く。週1回はポリデント消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った、排泄介助を行っている。オムツ、紙パンツその人に合った物を使用し対応している。	それぞれの排泄チェック表があり、そのパターンを職員が把握し共有している。適切な時に誘導することで失禁が減った。夜間はおむつを使用したり、ポータブルトイレを使用している方もいる。その人にあつた、排泄介助を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化・下剤での対応・腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴の好き嫌いはあるが、極力入りたい時に入浴して頂く。入浴時の体調を観察しながら、3日以上入らないということが無いように、清拭などで対応している。	基本的には週3回午前中の個浴だが、本人の希望に対応している。気が向かず入浴するまでに時間がかかる方がいるが、入浴されると気持ちが良いと言われる。入浴時は皮膚観察及びコミュニケーションノ場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は20時に設定しているが、それ以降でも本人の希望にて就寝してもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に関しての知識が完璧ではない。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフより提案したり、個人でしたいことを楽しみながらされている。		

R4.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午後は個別での散歩の時間を設けている。またドライブなど、その日の状況で行ったりしている。要望のあったことは可能な限り実現している。	近隣の矢部川沿いの道には花が咲き散歩コースになっており、二人ずつ散歩を行っている。暖かい日には、日光浴をしたり、近くの神社に行くこともある。立花町にコスモスを見に行った。ドライブなどその日の状況で行っており、要望のあったことは可能な限り行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて金銭所持している方もいるが、ご家族には無くなった際の対応はしていないことを伝えている。買い物時はスタッフが管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったりしており、季節感のある壁紙作り等、穏やかな空間作りを心掛けている。	ユニットは左右対称に作られ、中央に中庭があり、両ユニットには光がふりそそいでいる。利用者と一緒に作製した季節感のある壁飾りが穏やかな空間を作り、午後のひと時を思い思いに過ごしている。浴室も機械浴対応の浴室がある。事務室からはリビング、居室などが一望でき、目が行き届く。冬に備え加湿器を設置している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを並べ、皆さんで談話したりしながら、楽しませている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の好まれるものを置いている。	居室入り口には会長が作られたステキな木目の木材に習字の得意な職員が毛筆で描いた表札が掲げられている。ベッド・筆筒・カーテン・シルバーラックなどが備えられている。思い出のあるテーブル・いすなどをそばに置き、家族の写真などに囲まれ、安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築計画の時点で、工夫をしてあり、手すりや広さなど安全な環境になっている。		